

なかぎし

校訓 **正しく 強く 明るい子**

3月号

令和8年
3月3日(火)発行

紀の川市立中貴志小学校 文責 橋本



いよいよ卒業式…

56名の6年生の皆さん、いよいよ卒業ですね。卒業、おめでとうございます。6年間の小学校生活、9年間の義務教育前半を終えられること、心からお祝い申し上げます。

出会ってからもう1年が経ちました。体育館でのみなさんの緊張した表情が、つい最近のように感じられます。校長として皆さんとは1年間という短いお付き合いでした。1年経った今、成長した姿で卒業を迎えるにあたり、本当に頼もしく成長したなと日々感じています。

中貴志小学校で過ごした、この6年間…皆さんにとっては長かったですか、それとも短かったですか？今、振り返ってみるといろんな思い出が浮かんでくるのではないのでしょうか。入学式、春の遠足、修学旅行、運動会、社会見学、陸上大会と…、いろんな体験をして、多くの人から学んだ6年間だったと思います。

卒業式に向け、在校生は、卒業生の皆さんに中貴志小学校での思い出を深く刻んでもらえるよう毎日準備を始めてくれています。後輩達に伝えたい思いを、卒業していく先輩として示してあげてください。

今年1年、皆さんには機会がある毎に「応援してもらえる人になろう」と伝えてきました。今年1年で少し近づけたのでしょうか。このことは、これから皆さんが自分の夢や目標に向かって進んでいく上で、とても大切なことです。これからは、誰かが代わりにやってくれるだろうと考え、人にしてもらうことを期待してはいけないということです。自分のやるべきことを明らかにして、自分で努力してやり遂げようとする姿勢を持ち続ける。そうすれば、自ずと「応援してやろう」という人が出てくるものです。応援してもらおうと、それが自分の力となり次へのステップにつながっていくのです。

毎年最後の学校日よりで書いている言葉があります。この言葉は、先生自身が小学校を卒業する時に担任の先生が最後の学活で話してくれた言葉です。それは、「一度しかない人生だから・・・」という言葉です。



一度しかない人生だから、一つの出会いを大切に。一つの出会いは、自分を成長させてくれるチャンスです。皆さんには、これからたくさんの出会いが待っています。その一つ一つが貴重なものであり、自分を成長させてくれるきっかけとなります。一つの出会いでこれからの人生が変わることもあるのです。一度しかない人生だからこそ「応援してもらえ」存在があれば、様々な困難にも立ち向かっていくことにつながるのです。

さあ、皆さんは新しい中学校生活に向けてのスタートラインに立とうとしています。どこかで、成長した皆さんの姿を見せてもらうことを楽しみにしています。

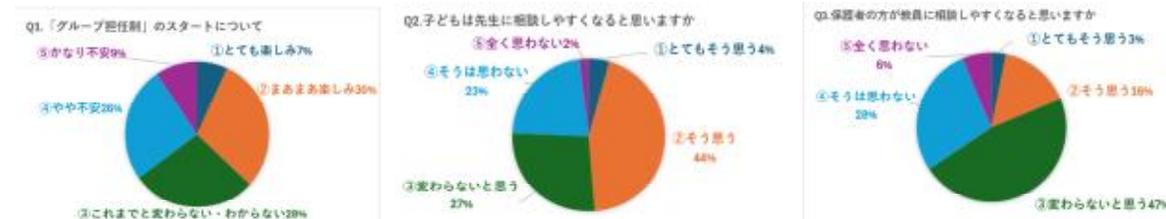
最後に、卒業生保護者の皆様方、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様には、本校教育に対して多大なるご協力ご支援いただきましたことを心よりお礼申し上げます。至らないところも多々あったかと思いますが、学校に対していつも温かく見守っていただき、また期待して頂いたことで、安心して教育活動を進めることができました。改めて、ここに感謝申し上げます。卒業生並びに保護者の皆様の益々のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

令和8年3月

中貴志小学校 校長 橋本雅敏



「グループ担任制」保護者アンケートから



2月10日(火)の保護者説明会への出席ありがとうございました。

グループ担任制は、「子どもを主語」にした学校づくりをすすめるために、子どもの主体的な活動を全教職員で支えることを目指す方向性を示したものです。新しい取組には不安が伴うものです。それゆえに多くの組織が現状維持を選んでしまいがちです。本校は、この取組が子どもの「生きる力」の育成につながると考え、グループ担任制に挑戦しようとしています。やってみないと見えてこない所があります。ただし、保護者の皆様が心配されている不安が0ではないことを忘れず、この取組を進めていきます。

また、グループ担任制に移行することで、全ての課題が一気に解決するわけではありません。ただ、中貴志小学校の目指す「みんながわくわく学び合う学校」という目標に向けて大きな一歩につながるものと考えます。子どもが「自分で見て、聞いて、考え、判断して、行動する」事を支える学校づくりの第一歩となります。今後とも、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。